令和5年度 農山漁村振興交付金(山村活性化対策) 事業実施主体 評価結果

1. 事業評価の実施

令和5年度に実施された農山漁村振興交付金(山村活性化対策)の事業について、「農山漁村振興交付金(山村活性化対策)実施要領」(平成30年3月28日付け29農振第2261号農林水産省農村振興局長通知)の第9の1の(1)の規定に基づき、評価を行ったので、その結果を公表する。

2. 評価結果

都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階			評価	評価コメント
			R3	R4	R5		
宮城県	栗原市	文字地区コミュニティ推進協議会	●	●	■	A	交付決定から取り組み期間が短かったにもかかわらず、製品化とブランディングの2軸の取り組みが完了した。今後の販売拡大に期待したい。

(注1) 「事業実施段階」の凡例： ○・・交付対象年度(計画) ●・・交付対象年度(実施済) □・・目標年度(計画) ■・・目標年度(実施済)

(注2) 「評価」の区分： A・・優良 B・・良好 C・・低調

3. 第三者の意見聴取

農山漁村振興交付金(山村活性化対策)実施要領の第9の1の(1)の規定に基づき、第三者である菅原達也氏から評価に当たり意見の聴取を行った。第三者及び意見聴取の概要は以下のとおり。

【第三者】

大正大学地域構想研究所 客員教授 菅原 達也

【意見聴取の概要】

地域資源を活用するための合意形成、組織づくり、人材育成の取組については、展示商談会における調査が有効であったと理解している。人材育成や地域の一体感創出については、若干課題が残るが、地域おこし協力隊制度を活用して当該エリアに移り住むこととなった人材もいるので、一定程度の成果はあったように見受けられる。地域資源の消費拡大や販売促進、付加価値向上の取り組みについては、Monji Colorsのブランディングのもとで様々な商品が開発され、製品化に至っている。商談会では販売につながる人脈形成も進めており、WEBサイトなどのPRツールも充実したことから、ここからがスタートと思い、持続可能で地域貢献が可能となる取り組みを継続して進めていただきたい。